

電波環境協議会主催講演会「CISPR ソウル会議報告会」を開催

ARIBが事務局を務める電波環境協議会（略称：EMCC）主催の標記講演会が、2月16日（木）に計72名の出席のもと東海大学校友会館で開催されました。

国際無線障害特別委員会（CISPR）会議は毎年開催されており、今年度は韓国のソウルにおいて昨年10月11日から20日までの10日間にわたり開催されています。我が国からは、電波利用環境委員会主査の藤原 修先生（名古屋工業大学大学院教授）をはじめ、35名の方々が参加されました。

電波環境協議会では、会員各位にCISPRの現状と動向を把握していただくため、例年CISPR報告会を開催しており、今年度は「ソウル会議」に参加された7名の方々に、総会、各小委員会の審議概要について講演いただきました。はじめに、当協議会の池田 哲夫会長（名古屋工業大学名誉教授）から開会挨拶のあと、続いて下記の報告が行われ、熱のこもった活発な質疑応答があり予定時間をかなりオーバーし終了しました。

本講演会は、CISPR会議の審議状況の全容を広く把握・確認いただける唯一の場として、今後も皆様のお役に立てるよう運営方法等改善を重ね継続実施してまいります。

記

1 CISPR ソウル会議総会報告

藤原 修 先生（情報通信審議会 情報通信技術分科会 電波利用環境委員会 主査
名古屋工業大学大学院教授）

2 SC-A の審議概要（無線妨害波測定および統計的手法について）

篠塚 隆 氏（独立行政法人情報通信研究機構 電磁波計測研究所電磁環境研究室）

3 SC-B の審議概要（工業、科学及び医療用高周波装置ならびに架空送電線、高電圧機器及び電気鉄道からの妨害について）

吉岡 康哉 氏（富士電機株式会社 技術開発本部 製品技術研究所 制御技術開発センター
制御技術開発部 制御アルゴリズム Gr.）

4 SC-F の審議概要（家庭用電気機器及び照明装置からの妨害とイミュニティ）

平伴 喜光 氏（パナソニック株式会社 エコソリューションズ社
ライティング事業グループ 品質環境革新センター 参事）

5 SC-H の審議概要（無線業務保護のための妨害波許容値）

松本 泰 氏（独立行政法人情報通信研究機構 電磁波計測研究所 電磁環境研究室 室長）

- 6 SC-Iの審議概要 (ITE、マルチメディア機器及び受信機の EMC 規格について、その 1)
雨宮 不二雄 氏 (NTT アドバンステクノロジー株式会社 ネットワークシステム事業本部
システム開発BU EMC チーム 主幹担当部長)
- 7 SC-Iの審議概要 (ITE、マルチメディア機器及び受信機の EMC 規格について、その 2
SC-I WG2, WG4 結果報告)
堀 和行 氏 (ソニー株式会社 品質センタープロダクトコンプライアンス室
コンプライアンス推進グループ 課長)



電波環境協議会主催講演会「CISPR ソウル会議報告会」の様子

700MHz 帯高度道路交通システムの標準規格の策定について

第 83 回 ARIB 規格会議 (平成 24 年 2 月 14 日) にて、下記のとおり ITS 関連の 2 案件が承認され、ARIB 標準規格等として策定されました。

記

1 700MHz 帯高度道路交通システム標準規格 (ARIB STD-T109 1.0 版)

TV のデジタル化に伴い使用可能となった 700MHz 帯の周波数を使用して、車と車、路と車が通信し情報を交換することにより安全運転を支援し、事故の低減につなげる「インフラ協調型安全運転支援システム」に関する標準規格。

(本規格は放送、携帯電話、ラジオマイクなどの隣接するシステムへの干渉を抑え、かつ、車車間・路車間通信を一つのシステムで実現させるものである。)

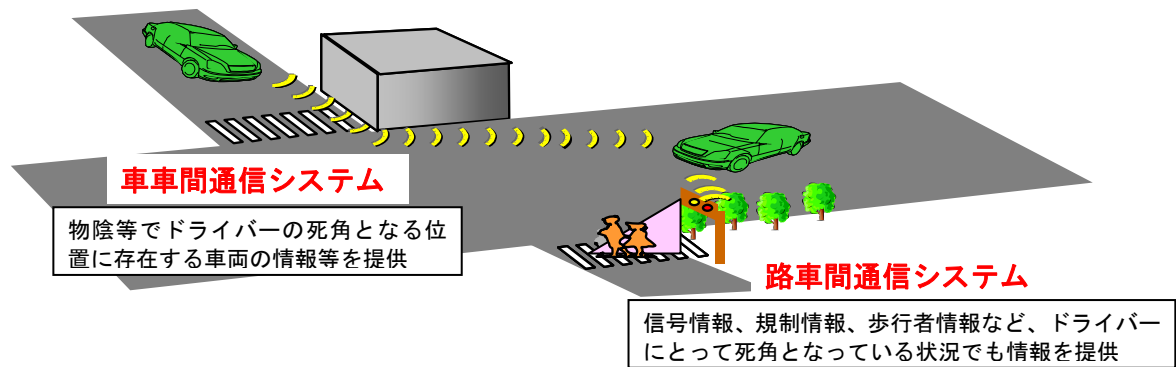
【経 緯】

- H21.07.28 情報通信審議会へ ITS 無線システムの技術的条件を諮問
- H23.08.03 情報通信審議会、ITS 無線システムの技術的条件のうち「700MHz 帯安全運転支援通信システムの技術的条件」 について一部答申
- H23.12.06 省令改正などへの意見募集結果の公表と電波監理審議会答申
- H23.12.14 『電波法施行規則等の一部を改正する省令』 公布

2 700MHz 帯高度道路交通システム陸上移動局の接続性確認に係る試験項目・試験条件術資料（ARIB TR-T20 1.0 版）

接続試験機を用いた国の技術基準に基づく無線設備に関する試験、通信制御方式等に関する試験及び接続試験器による試験を終了した移動局を、運用環境を想定した試験システムで実施する接続性確認試験等の技術資料。

◆ 車車間・路車間通信のイメージ



	システム概要	システムの特徴
車車間通信	車載器同士が直接通信を行い、周囲の車の情報（位置、速度等）を入手し、必要に応じて安全運転支援を行う。	インフラ整備に係わらず不特定の場所で利用可能。
路車間通信	路側機と車載器の通信により、インフラからの情報（信号情報、規制情報、歩行者情報等）を入手し、必要に応じて安全運転支援を行う。	路側機設置箇所確実に情報提供が可能であり、事故多発地点での効果が期待される。

総務省からのお知らせ

国際電気通信連合（ITU）2012 年世界無線通信会議（WRC-12）の結果
[【平成 24 年 2 月 20 日の総務省報道資料から】](#)

平成 24 年（2012 年）1 月 23 日から 2 月 17 日までの間、スイス（ジュネーブ）において、国際電気通信連合（ITU）2012 年世界無線通信会議（WRC-12）が開催されました。ついては、主な会合結果について以下のとおり発表いたします。

1 会合概要

- (1) 日時：平成 24 年 1 月 23 日～2 月 17 日
- (2) 場所：スイス（ジュネーブ）
- (3) 目的：「国際的な周波数分配」について各国間での調整を目的として開催。
- (4) 参加者：約 170 カ国から約 3,000 名が参加。我が国からは、総務省・民間事業者・研究機関などから約 70 名が参加。

2 主な会合結果

- (1) 安全・安心に関する議題
 - ・海洋漂流物や津波等の観測のための海洋レーダー用の周波数を確保するための議題
港湾における安全航行や津波観測への応用などに用いられる海洋レーダー機器の運用に必要な周波数の獲得を目指すもの。
- (2) 将来の宇宙研究に関する議題
 - ・宇宙探査用の衛星に使用する周波数を確保するための議題
将来の宇宙探査用の衛星（月周回衛星（SELENE2）等）のために新たな周波数獲得を目指すもの。
- (3) 将来の航空需要の増加に対応するための議題
 - ・航空管制用の周波数を確保するための調整手続の導入に関する議題
航空需要の増加に伴う周波数割当ての手続などを検討するための議題。我が国の運輸多目的衛星(MTSAT)の柔軟な周波数調整を目指すもの。
- (4) 主な将来の WRC の議題
 - ・「第 4 世代移動通信システム(IMT-Advanced)への周波数の追加分配」に関する新議題
IMT-Advanced への周波数の追加分配について検討を行うもの。
 - ・「うるう秒」に関する新議題
「うるう秒」の在り方について検討を行うもの。

なお、会合の結果概要については、[別紙](#) のとおり。

<関係報道資料>

国際電気通信連合（ITU）無線通信総会（RA-12）及び世界無線通信会議（WRC-12）の開催（平成 24 年 1 月 13 日）

URL: http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin04_02000021.html

スタジオ設備開発部会 副委員長

(スタジオ映像作業班委員)

新川 力

(株式会社フジテレビジョン

技術開発局技術開発室 室長)



2010年夏より、スタジオ設備開発部会の副委員長を務めさせて頂いております。

実は約30年間放送事業の技術に携わっていなながらも私とARIBとの具体的な接点は作業班経験も含めてこの時が初めてでした。

従いましてたった一年半の活動歴で今回このような場を賜りました事に感謝申し上げますとともに、長年精力的な活動をされてきた諸先輩方に対して僭越な気持ちで一杯です。

さて当開発部会は、現在進行形の放送に極めて密着したスタジオ設備の標準化作業を担ってきました。特に近年はアナログからデジタル、さらにHD化や放送のデジタル化への対応で諸先輩方の数多の功績があります。

そのため数多くの案件や作業班を抱えていたことで私がARIBに飛び込んだ時点ではスタジオ系分科会と番組制作系分科会との2つに分かれていて、実は当初は後者の主査を拝命致しました。ですがコア部分では一通りの標準化作業が終焉を迎えつつあり、周辺系設備のつめやポストデジタルに向けた対応、規格メンテナンスや新規案件の発掘などの段階へと想像も入っていますが盛時に比べて一服感が漂っており作業班も分科会に分けるほどありませんでした(と見えました)。

そうした中で私が最初に感じて漏らした一言、「主査ってなあに?」。勝手知らずで新米ゆえの防衛本能もあったと思いますが、中途半端に委員長と主任の間に入って「目の上のたん瘤」や組織の硬直化を招いたりしないかなど。でも本音の心配でした。

これに新委員長と事務局が俊敏に反応してあれよと言う間に分科会制廃止、そして主査2名は副委員長として委員長を補佐することに。

ほぼ同時進行で部会の抱えていた活動課題を解決するためにスタジオ映像作業班も新設され、ARIBという堅そうに見えていた組織の機動力や柔軟性に驚くとともに正直、色々な意味で意外な展開にも?。

以来現在に至っておりますが、自分の職歴がARIBの上で成り立っていたのだという事実を今さらながら痛感した次第で、今後も微力ながら地道に活動を続けて参りたいと思います。

編集後記

今年の冬は大雪で、雪害も甚大なものになっています。又、低温続きで野菜の不作も問題となっている地域もあります。関東でも寒い日が続いてますが、春の便りがチラホラ。春の便りを聞くとなんとなくホットします。(山田)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp